

(参考) 関係用語集

あ

アニマルウェルフェア	家畜の快適性に配慮した飼養管理。快適な環境下で家畜を飼養することにより、家畜の能力が引き出され、生産性の向上にもつながる。
イアコーン	トウモロコシの雌穂（イアコーン）のことで、芯、子実とこれを包む皮をいう。なお、イアコーンの一部あるいは全部を収穫し、密封・貯蔵し、乳酸発酵させサイレージ化したものをイアコーンサイレージという。
イタリアンライグラス	寒地型イネ科牧草で、主に単年利用される。耐湿性が比較的に強いことなどから、水田裏作での栽培にも適する。
稲発酵粗飼料（稲WCS）	稲の実が完熟する前に、実と茎葉を一体的に収穫し、乳酸発酵させた飼料。稲ホールクロップ・サイレージ（稲WCS）とも呼ばれる。水田の有効活用と飼料自給率の向上に資する飼料作物として、作付面積が拡大している。
エコフィード	エコフィード（ecofeed）とは、食品残さ等を有効活用した飼料のこと。環境にやさしい（ecological）や節約する（economical）等を意味するエコ（eco）と飼料を意味するフィード（feed）を併せた造語。
エコフィード認証制度	エコフィードの品質確保及び食品リサイクルへの関心と理解を深めることを目的に、一定の基準（食品残さ等の利用率、栄養成分の把握等）を満たす飼料を「エコフィード」として認証する制度。 （認証機関：（一社）日本科学飼料協会）
エコフィード利用畜産物認証制度	エコフィードの取組を消費者までつなげることで、取組に対する社会の認識と理解を深めることを目的に、一定の基準（給与計画に基づくエコフィードの給与、販売までのルート特定等）を満たす畜産物を「エコフィード利用畜産物」として認証する制度。（認証機関：（公社）中央畜産会）
SNP（一塩基多型）遺伝子解析技術	一つの塩基配列の違いが、乳量等の個体能力の違いを生じさせることがあり、これを「一塩基多型（SNP（Single Nucleotide Polymorphism の略））」と呼ぶ。その関係を明らかにすることで、家畜改良に役立てる技術。
枝肉	牛、豚等をと畜して、頭、皮、内臓等を取り除き、骨付の状態、左右に分割した状態の肉。

A B L

Asset Based Lending（動産・債権担保融資）の略。借り手の事業活動そのものに着目し、農畜産物（牛、豚、野菜など）等の動産や売掛金を担保に資金を貸し出す仕組み。

か

格付け

（公社）日本食肉格付協会が定める等級のこと。牛枝肉については、歩留まり（A～C）及び肉質（5～1）により15段階に分類される。

加工原料乳

脱脂粉乳、バター、チーズ等の乳製品に仕向けられる生乳。輸入品と競合し取引価格が生産コストを下回っているため、加工原料乳生産者補給金を交付している。

加工原料乳生産者補給金制度

加工原料乳生産者補給金等暫定措置法に基づき、生乳の価格形成の合理化等を図りつつ、加工原料乳地域の生乳の再生産の確保と全国の酪農経営の安定を図るため、加工原料乳について生産者補給金を交付する制度。

家畜改良増殖目標

家畜の能力（乳用牛の泌乳量、肉用牛の繁殖能力等）、体型、頭数等について、10年後の目標を定める。（対象は、乳用牛、肉用牛、豚、馬、めん山羊）

家畜市場

家畜の公正な取引及び適正な価格形成を行う場として、家畜取引法に基づき開設・運営されている市場。取引されている家畜は肉用子牛が多い。

キャトル・ブリーディング・ステーション（CBS）

繁殖経営で多くの時間を費やす、繁殖雌牛の分娩・種付けや子牛のほ育・育成を集約的に行う組織。なお、キャトル・ステーション（CS）は、繁殖経営で生産された子牛のほ育・育成を集約的に行う組織であり、繁殖雌牛の預託を行う場合もある。

牛群検定

農家が飼養している乳用牛の状況を客観的に数字で把握し、飼養管理改善や牛群改良に役立てるシステムのこと。具体的には、乳量、乳成分、体細胞数等のデータを個体毎に記録し、これらを集計・分析することにより、能力の高い雌牛の選抜を推進するもの。農家の牛群は乳用牛改良の基盤であり、収集されたデータは「検定成績表」として農家にフィードバックされ、能力に応じた雌牛の選抜的利用、飼料給与の改善、搾乳衛生管理、繁殖管理、遺伝的改良といった経営改善に役立っている。

供用期間【乳用牛】

乳用牛が生乳を生産している期間のこと。

クーラーステーション	酪農家から集めた生乳を、県内外の乳業工場に効率的かつ合理的に流通させるために、一時的に冷却貯留し、大型ミルクタンクローリーに積み替えて出荷する施設。
組換えDNA技術応用飼料	一般的に遺伝子組換え作物と呼ばれる。飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律に基づき、家畜が組換えDNA技術応用飼料を摂取する際の安全性については農業資材審議会、人が組換えDNA技術応用飼料を給与された家畜由来の畜産物を摂取する際の安全性については食品安全委員会にそれぞれ意見を聴き、その結果を受けて農林水産大臣による安全性の確認が行われたもののみ飼料として利用可能。
ゲノミック評価手法	DNAを構成する塩基配列のうち、牛個体ごとに1つの塩基が変異している特定の箇所(SNP)の検査結果(SNP情報)とその牛の泌乳成績等を分析し、その相関関係を遺伝的能力として評価する手法。
公共牧場	地方公共団体、農業協同組合、牧野組合等の団体が地域畜産の振興を図るため、農家の乳用牛または肉用牛を預かり、放牧利用を中心とした集団的な飼養管理を行う牧場。ふれあい機能をもつ牧場を「ふれあい牧場」とも呼ぶ。
荒廃農地	現に耕作されておらず、耕作の放棄により荒廃し、通常の農作業では作物の栽培が客観的に不可能となっている農地をいう。
口蹄疫	口蹄疫ウイルスが牛・豚などの偶蹄類(ひづめが偶数に分かれている動物)に感染する伝染病で、極めて高い感染力が特徴。口やひづめに水ぶくれなどの症状を示し、成長した家畜の死亡率は低い(子畜では死亡率が高くなる。)が、産業動物としての生産性は大きく低下することから、世界中で最も恐れられている家畜の伝染病の1つ。我が国の家畜伝染病予防法で「法定伝染病」に指定され、感染した家畜を発見次第、直ちに通報することや殺処分すること等を義務付けている。
コントラクター	畜産農家等から、飼料作物の収穫作業等の農作業を受託する組織。高齢化や飼養規模の拡大による労働力不足に対応するとともに、高性能機械の活用等による作業の効率化・収穫量の増加等に貢献。
混播【牧草】	牛の栄養バランス、草地の生産性を考慮して、イネ科牧草とマメ科牧草を混ぜて播種すること又はその牧草。

搾乳ロボット	人に代わり自動的に搾乳する機械のこと。具体的には、穀類などの飼料により牛を柵に誘導し、牛が柵内に入ると乳頭をセンサーで検出し、搾乳のためのカップを装着して搾乳する。搾乳が終了するとカップを自動的に離脱させて、牛を退出させる。牛はいつでも好むときに自らロボットに入ることができ、ストレスを与えず乳量も増える。
搾乳ユニット自動搬送装置	繋ぎ飼い牛舎内で頭上に設置されたレールを用い、搾乳ユニットを乳牛の近くまで自動的に搬送する装置。これにより、搾乳ユニットを持ち運ぶ労働が軽減される。
産地食肉センター	牛・豚等の飼養地域に設置される、牛・豚等のと畜、部分肉処理等を一貫して行うための食肉処理施設。
指定生乳生産者団体	加工原料乳生産者補給金等暫定措置法に基づき、都道府県知事又は農林水産大臣が指定する生乳生産者の団体（全国 10 団体）。より多くの酪農家から生乳の販売委託を受け、価格交渉力を強化して乳業メーカーと対等に交渉。また、生乳をまとめて輸送することによる輸送コストの削減や、販売先の調整による無駄のない生乳販売などにも取り組んでいる。
集送乳	酪農家が生産した生乳をミルクタンクローリーにより集め（集乳）、その集めた生乳を乳業工場に輸送（送乳）すること。
集約放牧	乳用牛（搾乳）の放牧手法のひとつであり、放牧地をいくつかの区画に区切って、牛を移動させて放牧することにより、栄養価の高い短草状態の牧草を安定的に採食させることができる。生産性の低下を抑制し、コストを削減する放牧技術である。
受精卵移植技術	優れた能力を持つ家畜から作出した受精卵を、他の家畜の子宮内に移植して優れた家畜を効率的に生産する技術。例えば、後継牛生産に向かない乳用牛に和牛受精卵を移植することにより、和子牛を生産することができる。
飼養衛生管理基準	家畜伝染病予防法で定められた、家畜の所有者が遵守すべき衛生管理方法の基準。
生涯生産性	単なる乳量だけでなく、乳牛の供用年数等の経済性も考慮した生涯における生産性のこと。
初生牛	生後間もない子牛を指す言葉であり、特に乳用種の雄子牛に用いられる場合が多い。 生まれたばかりの子牛は、体が乾いておらず濡れていることから「ヌレ子」ともいう。

飼料添加物	飼料の品質低下の防止や栄養成分の補給、飼料が含有している栄養成分の有効な利用の促進の目的で飼料に添加・混和等の方法によって用いられるビタミン・抗菌性物質等の総称。飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律に基づき、農林水産大臣に指定され、基準・規格を満たしたもののみ利用可能。
飼料用米	家畜の飼料として利用される米。稲発酵粗飼料とは異なり、茎葉は利用せず、粃のみを活用する。輸入飼料価格が今後とも高水準で推移する可能性がある中で、輸入とうもろこしに代替できる国産飼料原料として、また、水田の有効活用と飼料自給率の向上に資する飼料作物として注目され、作付面積が拡大している。 なお、稲わらについても飼料利用が可能なことから積極的な活用が推奨される。
スーダングラス ・ソルガム	イネ科の飼料作物で、通常単年利用される。温暖地から暖地を中心に栽培されている。再生力が強いことから台風の常襲地帯でも栽培が可能。一般的に収量性、耐旱性及び耐湿性が高い。
スタンション	牛の首の部分を固定しておく装置。主に繋ぎ飼い牛舎で使用されるが、放し飼い方式牛舎の給餌柵などにも使用されている。個体別給餌、発情や異常の発見しやすさ、他の個体同士との競合や闘争の防止など、個体管理の点で多くの利点がある。
連動スタンション	連続したスタンションの開閉を一元的に同時に行うことが出来るシステム。
性判別技術	X精子（雌精子）又はY精子（雄精子）に分別した精液を用いて、特定の性別の家畜を生産する繁殖技術。
た	
体細胞	乳牛の血液中の白血球や上皮細胞が生乳中に混入したもの。産次を経るほど生乳中の体細胞数は多くなる。また、乳房炎に罹っている乳牛も一般的に体細胞数（白血球）が多くなるため、乳質向上等を図るための指標として活用されている。
堆肥化	有機物を含む材料を、酸素が十分にある条件下で微生物の作用により分解（「発酵」とも呼ばれる。）し、土壤改良資材や肥料に変換すること。家畜の排せつ物をたい肥化する場合は、水分含量の調整と通気性の確保が必要となるため、もみがらやおがくずなどの副資材を混合して、適宜攪拌を行うことが重要。
畜産クラスター	畜産農家と地域の畜産関係者（コントラクター等の支援組織、流通加工業者、農業団体、行政等）がクラスター（ぶどうの房）

のように、一体的に結集することで、畜産の収益性を地域全体で向上させるための取組。

繋ぎ飼い式牛舎 繋留方法によって呼び方が異なり、ロープやチェーンなどで繋留するタイストール、牛体頸部をスタンションにより緩やかに挟んで繋留するスタンションストールなどがある。
個々の牛について作業者の目が届きやすいことが特徴。

DNA解析技術 遺伝的能力や遺伝病の発生を事前に把握するため、優良な形質や遺伝病に関連するDNA（遺伝子）を特定する技術。現在、優良形質については、黒毛和種の脂肪交雑、枝肉重量に関連するDNAが特定されつつあり、機能解析から特許に結びついた事例も出ている。また、遺伝病については、原因となるDNA（遺伝子）の特定により、牛で11種、豚で1種の遺伝病診断法が確立されている。

TMRセンター 粗飼料、濃厚飼料、添加物等を混合し、牛が必要とする全ての栄養素をバランス良く含んだ飼料を農家の庭先まで配送する組織。栄養的に均一で選び食いができないという特長がある。
※TMRとは、Total Mixed Ration（完全混合飼料）の略。

な

肉用子牛生産者補給金制度 牛肉の輸入自由化に伴う子牛価格への影響に対処するため、肉用子牛生産安定等特別措置法に基づき、子牛価格が一定水準を下回った場合に、生産者に補給金を交付し、肉用子牛生産の安定を図る制度。

乳房炎 乳腺の炎症のこと。その原因としては乳房内に侵入した微生物によるものが主である。乳房炎は乳牛における疾病の中で、生産性に直接関わる疾病であり、経済的損失が非常に高い。

乳和食 味噌や醤油などの伝統的調味料に、「コク味」や「旨味」を有している牛乳（成分無調整牛乳）を組み合わせることで、利用されている食材本来の風味や特徴を損なわずに食塩やだしを減らし、美味しく和食を食べてもらう調理法。

日本畜産物輸出促進協議会 生産者団体、輸出業者等を構成員とし、国産畜産物についてオールジャパン体制で輸出促進に取り組む団体。平成26年12月8日に設立された。
主な活動内容は、国産畜産物の一体的な輸出戦略の検討、プロモーションの実施、畜産物輸出関係者に対する輸出情報の収集・提供等である。

農場HACCP 農場HACCPは、畜産農場における衛生管理を向上させるため、危害を与える要因（微生物、化学物質、注射針の残留等

異物など)を防止するための管理するポイントとして設定し、継続的に監視・記録を行うことにより、農場段階で危害を与える要因をコントロールする手法。

は

パイプライン 搾乳機（ミルクカー）により搾った生乳を牛舎や搾乳室に配管されたパイプを通じて冷却装置（バルククーラー）に送り、冷却・貯蔵する方式。この配管そのものを指す場合もある。

配合飼料価格安定制度 配合飼料価格の上昇が畜産経営に及ぼす影響を緩和するため、通常補填（生産者と配合飼料メーカーが積立）と、異常な価格高騰時に通常補填を補完する異常補填（国と配合飼料メーカーが積立）の二段階の仕組みで生産者への補填を行う制度。

配乳調整 集乳した生乳を指定生乳生産者団体等が乳業者に配乳するにあたり、乳業者の需要等に応じて、その販売用途等を調整すること。

**ハラール
ハラールと畜** イスラム法で定められた豚等の「不浄なもの」を含まない・触れていないことをハラールという。ハラール牛肉の生産には、豚等の不浄なものからの隔離、非ハラール製品と区別した状態でのと畜が求められる。

H A C C P Hazard Analysis and Critical Control Point（危害分析重要管理点）の略。これまでのような最終製品の抜き取り検査を中心とする品質管理方法とは異なり、原材料から加工・包装・出荷に至るすべての段階で発生する可能性のある食品衛生上の問題点を検討し、その発生を防止又は減少させる管理方式。

**H A C C P 導
入型基準** と畜場法施行規則第7条等に定めると畜業者等の講ずべき衛生措置の基準のうち、H A C C Pを用いて衛生管理を行う場合の基準。

泌乳持続性 乳量の変化が小さく、泌乳ピーク時の乳量を持続する能力。

部分肉 枝肉を、カタ、バラ、モモ等の各部位に分割し、骨や余計な脂肪等を取り除いた、肉のかたまり。

フリーストール 放し飼い式牛舎で、列状に配置した牛床（ストール）に牛が自由に横臥できる方式をいう。牛が自由に行動できるため、牛にストレスを与えず、また省力化の効果が大きい。

分離給与 粗飼料と濃厚飼料等を別々に給与する方式のこと。一方、粗飼料と濃厚飼料等を混合して給与する方式にTMR等の方式が

ある。⇒TMRセンター

分離給与は古くから行われており、設備投資を必要とせず、緻密な給餌方法をとれば、個体別管理ができるなどの利点がある一方、選び食いを助長し、給餌作業時間が長くとられるなどの短所がある。

ヘルパー	農家が休日を確保する場合や突発事故が発生した場合等において農家に代わり飼養管理等を行う者。
放牧畜産基準認証制度	自給飼料の利用拡大や放牧の普及促進と消費者の理解醸成を図るため、(一社)日本草地畜産種子協会が定めた放牧畜産認証制度。1頭当たりの放牧面積など一定の基準(放牧畜産基準)を満たす必要がある。
ほ乳(育)ロボット	子牛へ自動的に代用乳を与える装置。省力化だけでなく、子牛個体ごとにほ乳量やほ乳回数を自由にコントロールできるため、子牛の発育管理に役立つとともに、早くから集団管理にならされることができる。
ボディ・コンディショニング・スコア(BCS)	代謝異常等をおこしている個体を発見するため、個体ごとの太り具合を数値化する手法。

ま

(新) マルキン事業	肥育牛1頭当たりの粗収益(枝肉価格等)が生産コストを下回った場合に、生産者と国の積立金から差額の8割を補填金として交付する補助事業。前身の事業が牛肉輸入自由化を契機に緊急対策として創設されたことから「マルキン」との呼称が定着し、現行事業となった平成22年度より「新マルキン」と呼ばれている。
ミルクングパーラー	放し飼い方式で飼養される乳牛を搾乳するための部屋のこと。牛をパーラーに移動させて搾乳を行うため、省力化の効果が大きい。
アブレストパーラー	牛を横に並べて搾乳する設備で、搾乳作業が入るスペースは牛2頭ごとに配置される。繋ぎ飼い式牛舎を改造して、低コストでつくることができるのが特徴。
パラレルパーラー	牛を横に並べて、搾乳作業は牛の後肢の股間からユニットを装着して搾乳する設備。牛と牛の間隔が狭く、搾乳作業者の移動距離が非常に短いのが特徴。
ロータリーパーラー	牛を乗せた円盤を回転させ、1回転する間に搾乳する設備。搾乳作業者は移動することなく、牛にユニットを装着すること

ができるのが特徴。設備が大型で、建設費が高い。

や

薬事監視員	医薬品医療機器等法（旧薬事法）に基づき、動物用医薬品等が適正に製造、販売、使用されるよう、事業者に対する立入検査等を行う、農林水産大臣又は都道府県知事により任命された者。
-------	---

用途別取引	飲用向け生乳、チーズ向け生乳など、生乳の用途ごとに価格を分けて取引すること。
-------	--

要指示医薬品制度	医薬品医療機器等法（旧薬事法）に基づき、牛、豚、鶏等に使用する動物用医薬品のうち、副作用が強い、あるいは薬剤耐性菌が生じやすいなどの理由から、獣医師から処方箋の交付や指示を受けた者以外への販売を禁止する制度。
----------	--

ら

酪農教育ファーム	子供達を中心に牧場へ受け入れ等を行い、実際に牛に触れたり、搾乳や牛の世話などの酪農体験を通じて、食といのちの学びを支援する牧場。
----------	--

わ

和牛統一マーク	オールジャパン体制で国産和牛のブランド化を推進するため、農林水産省と関係団体の協力により、平成 19 年に作成されたマーク。 平成 27 年 4 月時点で、EU 28 ヶ国を含む 40 ヶ国で商標登録されている。 海外で販売される牛肉のパッケージへの貼付等の活用が行われている。
---------	---

